

超音波検査で観察し得た木村病の一例

◎武藤 憲太¹⁾、西浦 哲哉¹⁾、片山 絢郁¹⁾、十時 花帆¹⁾、喜多 なつみ¹⁾、藤田 寿之¹⁾、染矢 賢俊¹⁾
独立行政法人 国立病院機構 長崎医療センター¹⁾

【はじめに】木村病（軟部好酸球性肉芽腫）は、全身の軟部組織に発生する好酸球浸潤を伴う炎症性肉芽腫であり、頭頸部領域（特に耳下腺や耳介周囲）に好発する比較的稀な疾患である。今回、超音波検査で観察し得た木村病の症例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

【症例】40歳代，男性。2年前より左耳介後面の腫瘤を触知，増大と搔痒感を認めるようになったため，精査目的に当院形成外科に紹介受診となった。来院時血液検査の白血球分画で好酸球9.7%，IgE：524IU/mLと軽度上昇を認めた。精査目的に行った超音波検査で左耳介後面の皮下に境界明瞭な低輝度腫瘤を認めた。内部は血流豊富で石灰化や液状変性は認めず，リンパ節の腫脹も認めなかった。また，内部のwoolly appearanceや周囲軟部組織のエコー輝度上昇も指摘できなかった。続いて行った造影MRI検査の結果も併せ，木村病や血管奇形の可能性が疑われた。その後，腫瘍摘出術が施行され，病理組織学的にIgG4関連疾患を合併した木村病と診断された。

【考察】木村病は10～30歳代の男性に多く，しばしば搔痒

感を伴う無痛性腫瘤と報告され，血中好酸球，非特異的IgEの増多を特徴的とする比較的稀な疾患である。本症例は40歳代であったが，男性で耳介周囲に発生した搔痒感を伴う無痛性腫瘤であり，血中好酸球，IgE軽度上昇もみられ報告と類似していた。木村病の超音波所見の特徴として境界不明瞭な低輝度結節，内部のwoolly appearance，周囲軟部組織のエコー輝度上昇，内部の血流シグナルの増加，頸部リンパ節の腫脹と報告されている。本症例は内部の血流シグナルの増加は認めたが，その他の所見は指摘できなかった。また，木村病は悪性リンパ腫との鑑別が問題になるが，本症例は頸部リンパ節の腫脹は認めず，他画像検査でも悪性リンパ腫を疑う所見は認めなかった。頭頸部に発生した腫瘤性病変は臨床所見も考慮し，木村病の可能性も念頭に置いて検査を行うことが重要と思われた。

【結語】今回，我々は超音波検査で観察し得た木村病の一例を経験した。超音波検査は木村病の特徴的所見から診断の一助になり得る可能性があり，有用と思われた。

連絡先：長崎医療センター 生理検査室(内線3320)